

# じゅくこう

## 浄覚寺縁起

二月の行事が中止となりましたので、今月は浄覚寺の縁起についてお話しさせていただきます。

お寺に伝わる話では約四百年の歴史があると聞いております。

その昔、室町時代(一三三六〜一五七三)の末期にはすでに小さなお堂があったそうです。そのお堂にあるお坊さんが江戸時代(一六〇三〜一八六八)の初期に來られました。

江戸時代の最初にあった大坂の陣(一六一四と一六一五)では現在の平野区地域でも合戦が繰り広げられ多くの戦死者が出たということです。その者たちを弔うために浄照坊(久宝寺法

円が建立した現在の天王寺区にある寺院)におられた一人の僧が、当山の開基仏(絹本着色方便法身阿弥陀如来画像、一四八〇年代作)

とともにこの地へ来て寺基を拡充したと伝えられているのです。それが今から約四百年前のことです。

その後、少しずつ時間をかけて寺観を整えていったよう、本願寺記録室に「寛文九(一六六九)年六月二十二日寺号許可」とあり、ここから浄覚寺としての歴史が始まります。この記録をもつて平成三十一年四月に開基三百五十年の記念法要をつとめさせていただきました。

また、開基仏の阿弥陀如来画像の他にも、十七世紀後半に本願寺十四世門主寂如上人から下附された良如

第35号  
(通算375号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

上人画像、太子画像、七高僧画像、親鸞聖人画像には「超願寺門下河内国丹北郡吉富村惣道場浄覚寺」と裏書きがあり、その頃には四天王寺南側に位置する超願寺との間に本末関係があったことが想像されます。

(これらの絵像は平成十七年度、大阪市指定文化財に登録されております。)

その後、約百年の歳月が流れ、門徒中の思いが一つとなり現在の本堂が建立されます。本堂内陣欄間の裏書に「安永二(一七七三)願主吉富村平兵衛」とありますので、約二百五十年の間修復を重ねながら本堂を護持してこられたことが分かります。

このような歴史ある浄覚寺を再建するために歩んでいきたいと思っております。

### 浄覚寺ヨガ教室

- ・3月16日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆3月は開催させていただきます。ぜひご予約ください。

### 二月行事中止

二月は本来十三日に「仏教文化講演会」、十六日には「浄覚寺ヨガ教室」を開催予定でしたが、コロナ禍の再来により残念ながら中止とさせていただきます。

仏教文化講演会の内容は来年に延期ということをご担当の先生にご了解いただきました。

二月のヨガ教室(十六日)、春季彼岸会(二十一日)の法要は無事につとめられるよう準備を進めております。ぜひお参りください。



今日一日の

積み重ねが

歴史を作る

未来のための歴史を

今歩んでいる



# 御文章に聞く(第31回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨園著 本願寺出版社

## 仏教語辞典



### 一遍

延応元(一二三九)年、正応二(一二八九)年。時宗の開祖。家や土地を一切捨てて遊行の旅に出て、南無阿弥陀仏と書かれた念仏札を出会った人に配った。踊り念仏をして、民衆を極楽浄土へ導いた。

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

**信心獲得章**(五帖第五通)  
信心獲得すというは、第十八の願をこころうるなり、この願をこころうるといふは、南無阿弥陀仏のすがたをこころうるなり、このゆえに、南無と帰命する一念の処に、発願回向のこころあるべし、これすなわち、弥陀如来の凡夫に回向します。弥陀如来なり、これを大経には、令諸衆生功德成就と説けり、

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。先月は「南無阿弥陀仏のすがたを心得る」とは「必ずたすける」という阿弥陀さまの名のりを聞き受けることだとお伝えしました。それが他力の信心ということでもあります。さて、続いてのキーワードは「発願回向」という言葉です。必ずたすけるという阿弥陀さまのお心を受け取ると、私側の心は阿弥陀さまにおまかせをしますという心になります。それが「南無と帰命する一念」と表現されていますが、その一念の中に発願回向が具わっていると言われるのです。本来、発願回向という意味は、私たち自身が浄土を願う心を発して善行を修めていくことを言いますが、親鸞聖人はこの発願回向の主語は阿弥陀さまであると読まれたのです。自己中心の心に閉じこもって真実に向かおうとしない私を見捨てられず、阿弥陀さまが願いを發して、私たちに念仏往生という仏道を与えてくださいました。阿弥陀さまが成就されたすばらしい徳のすべてを、私のために願いをこめて回らして与えてくださったということなのです。

## 編集後記

今月も「じゅごう」をお届け致します。二月二十四日、ロシアが隣国ウクライナに攻撃を開始したとの報道がありました。つまり戦争が始まったということ。国や歴史が違ふのですから、当然考え方が違ふことは理解できません。けれどその大前提として「戦争をしてはならない」というお互いの共通認識がなければ、また自分こそが正しいのだと自分の主張を押しつけるだけならば、当然の帰結として争いとなります。いわんや、非武装化のための暴力などは論外の理屈です。お釈迦さまの説かれた法句經にある言葉をご紹介します。「すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身をひきくらべて、殺してはならぬ。殺してはならぬ。」私たちができること。まずは相手の気持ちを考えて、殺してはならぬ。殺してはならぬ。(釋法道)

## 行事案内

日時・三月二十一日(祝) 十四時より  
行事・春季彼岸会  
場所・長原浄覚寺  
法話・四夷法顕先生(兵庫)  
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)  
四月十六日(土) 十四時・十九時  
十七日(日) 十四時  
報恩講法要 法話 中西昌弘先生

